



った魅力のある場所でした。数々の研修、発表が行われましたが、中でも印象に残ったのは、車椅子の女性が最後に行った「アクシヨン！アクシヨン！アクシヨン！」という力強い呼びかけでした。「インクルーシブな社会を実現するためには厳しい困難が待ち受けている。しかし私たちはその苦境をものともせず、乗り越えていく。我々には行動あるのみ」。発言する女性の言葉をそう理解し、勇気づけられました。ヨルダンの区画では、ガザの戦場で負傷した子どもたちのために作った義足や義手を展示していました。そこには現在の苦悩があること、そしてそれをなんとか改善しようとする意思をもった人たちがいることを理解しました。

右からペルー、南アフリカ、イギリス、イタリア、ポルトガル、ドイツ、日本のE1メンバー

学校と仕事におけるインクルーシブな労働市場と世界中の障がい者への日常の攻撃から守る、グリーン経済とデジタル経済の提唱しました。

そして、今思い出しても心温まるEーのメンバーたちとの交わり。今回のサミットでは、ペルー、南アフリカ、イギリス、インド、ポルトガル、ドイツ、ギニア、日本から、教職員と教育員が参加しました。組合員というだけで、旧知に思え安心感がありました。

2日目に私の持ち込んだプレゼンを発表しました。拙い英語でしたが、全員が集中して聞いてくださり、何とか説明し終えて安堵しました。イギリスの障害のある教職支援者アランが「あなたは、日本の勤務地である小さい島で楽しんで授業している。これからもそのことを続けてほしい」と言ってくれたことがとて

も嬉しかったです。

サミットの終わりにアンマン——ペルリン宣言が出されました。それは2つの特別な目標を掲げています。「①すべての国際的な発展がアクセスできることを保障すること。②国家レベルで実行される国際発展プログラムの少なくとも15%は、障害インクルージョンの追求が保障されるように闘うこと」。障害者のインクルージョンに対し、初めて数値的な目標を設定するよう要求しています。この目標が、2028年の第4回国際障害サミットまでに成し遂げられるかがこれからの大きな課題になります。

帰国後、障教ネット運営委員会
で報告をした際、私がサミットで
知りあつたE1の組合員にアンケ
ートを取りたいという意見が出ま
した。まず、アランにアンケート
の趣旨を伝え、依頼すると快諾し
てくれました。さらに南アフリカ
の組合員メンディも援助を申し出
てくれました。メンディは、南ア
フリカは差別的なアパルトヘイト
の政策が終わつてからインクルー
シブ教育の推進に大きくふみ出し
たこと、憲法には障害による差別
の禁止と明記してあることを示唆
してくれました。アランは、日本
の障害のある教職員へメッセージ

をくれました。「国際労働スローガンである、『人を傷つけることとは、すべての人を傷つけることである』のもと、地方で、それぞれの国で、国際的に、私たちの権利のために闘い、私たちの勤務条件を守るために、私たちは皆、ともに団結して立ち上がる必要がある」と私たちが仲間に言いいます。私たちが組織せよ、同志です。強くあれ、組織せよ、同志である各国の組合と通じ合おう。無視されることを拒絶しよう。」

回答してくれた2人に深く感謝すると同時に、2人を同僚のように感じました。

私にとって国際障害者サミットは、世界が繋がっていることを強く感じ、「小さなことでも共にアクションを起こそう」とエンパワーされる研修となりました。

日教組 障害のある教職員ネットワーク

私たちは一人ではない！
障害のある教職員のエンパワーメント

[illegible]

まで難しいとされてきた海外修学旅行の引率業務ができたこと等、運営委員が先導してきたとりくみにより実現した好事例や、全国集会で共有された課題など障害のある教職員が働く現場の実態を伝え、勤務条件・職場環境の改善にむけた要請を行っています。

25年度は3年に一度開催されるEI（教育インターナショナル）の「国際障害サミット」がドイツ・ベルリンで開催され、障教ネットの運営委員が参加しました。この様子は全国集会で報告され、「障害のある教職員が声を上げること、本当の意味での多様性やインクルーシブな社会が実現すると思う」、「子どもとの関わりを大切にしていること、海外の教職員から

いベルリンに参加して

福岡県教組 高松真理子

ること、そして子どもたちの美術作品などを掲載した25枚のプレゼンを作り、その説明文を英訳し、印刷して持参することになりました。視覚的な写真を大きく使うことで言葉に頼らず、日本の障害のある一教員の、ありのままの教育実践をEIのメンバーに伝えることにしました。

多くの情報を入手し、還元しようとする姿勢を感じた」との感想がありました。今回は、11月の全国集会で講演いただいた内容をお伝えします。

日本聴覚協会「こころを未来へ繋ぐ」活動報告会
「こころを未来へ繋ぐ」活動報告会

3月終わりのベルリンの空は鮮明で美しい水色でした。会場に着くと、サミットに関わるスタッフ、ボランティアの人たち全員が「ようこそ！」と大歓迎してくれていると感じました。行き交う障害のある人たちはそれぞれの民族衣装で身を包んでいることも多く、その堂々とした姿に心惹かれました。サミットには4日間で4,700人が参加しました。会場は旧ベルリン駅を改造したもので、広大で、新しさと古さが入り混じ

